

特別企画

★大学生と連携し、子ども向けイベントを実施しているクラブ★

NPO法人おやべスポーツクラブ 富山県小矢部市

総合型クラブが、「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」という基本理念の実現に向けて、自立・自律し安定的に充実・発展していくためには、地域の各種機関・団体関係者等との連携が必要となってきます。

そこで今回は、大学生と連携し、子ども向けのイベントを行っているクラブを紹介します。

1

クラブ概要

「いい汗 いい顔 すてきな仲間」をキャッチフレーズに会員が主体となり始動

おやべスポーツクラブは、平成10年に当時の派遣スポーツ主事^{※1}と市体育課が中心となり、体育協会や体育指導委員（現スポーツ推進委員）の協力をいただき、総合型地域スポーツクラブの発足に向けて設立準備委員会を開催しました。平成12年に設立し、「いい汗 いい顔 すてきな仲間」をキャッチフレーズに、運営のために会員からクラブの運営委員を募り、総務・教室・広報・イベントの部会を実施運営、平成18年にはNPO法人格を取得しました。

平成20年には活動拠点となる小矢部市文化スポーツセンター、照明設備のあるグラウンド、平成26年には小矢部ホッケー場、小矢部市野外運動広場の施設管理を受託しました。

※1 地域におけるスポーツ・社会体育の振興を目的に市町村教育委員会の求めに応じて派遣される教員

小学生から大人、さらには「ホッケーの街おやべ」を支えるなど幅広く展開

教室は、大人向けの一般教室（健康・仲間・生きがいづくり）と子ども向けの青少年教室（子どもたちの未来を育む）を実施しています。一般教室は31教室開催しており、年間・3カ月・1回と参加者それぞれの目的や生活スタイルなどに合わせて、教室設定（回数・受講料）を行っています。

青少年教室（子どもたちの未来を育む）は、小学生から中学生を対象に、初心者から上級者まで活動できる教室を競技団体と連携して開催しています。小学生を対象とした少年少女スポーツ教室は、市から地域おやべっ子推進事業の委託を受けて開催し、中学生を対象としたジュニアスポーツ振興事業は、地元企業の財団からの助成を受けて開催しています。また、大学生が企画運営を行って夏休み・冬休みに実施している「わんぱく学園」は小学生人気No.1イベントです。

令和4年からは日本ホッケートップリーグに参戦している「小矢部RED OX」を中心とした全世代型ホッケークラブ「RED OX OYABE HOCKEY CLUB」と教室展開や大会運営で協働を図り「ホッケーの街おやべ」を支えています。

2 大学生が主体となる人気イベント「わんぱく学園」

子どもたちへ熱い想いを伝え、毎回笑い感動の涙あふれる場に

わんぱく学園は、近隣クラブに視察に行ったことをきっかけに活動を始めました。

クラブが活動を始めて6年がたったころ、自分たちのクラブ活動を振り返り、運営委員やスタッフで話し合う機会が増えました。自分たちのクラブには何かが足りない気がしていましたが、具体的にどうしたらよいかまったく答えが出ませんでした。そこで近隣にあるクラブへ視察に行くことになり、夏休み子どもプログラムの取り組みがとても情熱的で素晴らしく、感動して帰ってきました。

クラブでも開催してみようということになり、「夏休み特別企画、子どもたちと一緒に活動しませんか？」と地元の大学生に直接声をかけてみたところ、その友人などのつながりでなんと7名の大学生が集まりました。企画を話し合ったときの充実した熱い時間は今でも忘れません。冬休み企画には16名の大学生が集まり、3日間の開催で募集したところ、小学生59名の応募があり、とてもうれしかったです。

2年目の夏、1年目に参加した地元の大学生から、所属する『富山大学チャレンジキャンプの会』のメンバーでぜひ活動させてほしいと声上がり、感銘を受けました。それから今日まで、夏休み、冬休み、時には春休みにもわんぱく学園を開催し、毎回、抽選になるほど人気のイベントになっています。

平成19年から開催して16年目になりますが、2泊3日の企画により寝不足でダウンする大学生がいたり、学生スタッフが少なく開催が厳しいときもあったり、それでも毎回「わんぱく学園」って何？今回の「テーマ」はどうするかを話し合い、その取り組みが引き継がれていると思います。

大学生は、イベント最終日に子どもたちの前で一人ずつ感想を語ります。その想いは子どもたちにも伝わっていると感じます。

毎回、大学生の笑いと涙にあふれ、想いのこもったわんぱく学園は、子どもたちにとってふだん体験できない特別な思い出になっていると思います。



大学の打ち合わせ



学生スタッフ

●わんぱく学園 取り組み内容

わんぱく学園は、富山大学の学生が企画運営を行い、小学1年生～6年生、他学校、大学生が一緒になって、学校や家庭では体験できない活動を行っているイベントです。日帰り、1泊2日、2泊3日、バスや公共交通機関を使って県外宿泊などさまざまな形で活動をしています。

<テーマ>

- 夏 「みんなで暮らそうキャンプ～!」「わんぱく王に、君はなる!!」
「わんぱく!夏のキラキラ大冒険☆」「パワー全開 夏だ!まつりだ!わんぱくだ!」など
- 冬 「かわいい子には旅をさせよ!」「雪降る冬を乗り越えろ!パワフル年越しわんぱくランド」
「ボクらのキラキラクリスマス大作戦」「ハートがホットなフユ」
「わんぱくMAGIC!! つながるハート」など

<実施内容>

- 夏 水あそび、夏祭り、運動会、流しそうめん、キャンプ、きもだめしなど
- 冬 クリスマス会、お正月遊び大会、餅つき、雪合戦、ケーキづくり
食材ゲットゲーム、サイレントゲームなど
- おなじみの遊びをわんぱく学園オリジナルに工夫を凝らしてつくりあげます。

<本番までのスケジュール>

夏休み期間開催の場合

- 4月 学生がサークルメンバー募集
5月 大学生会議
6月 クラブスタッフと打ち合わせ
(内容協議・チラシ作成等)
7月 フィールド調査(事前準備)
※内容によって数回
8月 本番

冬休み期間開催の場合

- 9月 大学生会議
10月 クラブスタッフと打ち合わせ
(内容協議・チラシ作成等)
11月 フィールド調査(事前準備)
※内容によって数回
12月 本番

<費用>

テーマ(内容)が決定したときに大学生と協議して参加料を決定しています。会員価格と一般価格の2種類に料金設定し、クラブ会員はお得に参加できるようにしています。

参加料内訳:事業教材費、消耗品費、保険料、施設管理費、謝金など

※わずかながら大学生には謝金を渡して活動しています。



チラシ作成



水遊び



雪遊び



餅つき

「わんぱく学園」の活動を通じてクラブに対する信頼度アップに

わんぱく学園を行うようになってから、クラブに子どもたちが遊びに来てくれるようになりました。大学生スタッフのOB・OGや、小学校を卒業した子どもたちも手伝いに来てくれています。また、取り組みを始めたころは、教員志望の学生が多く参加していましたが、今ではさまざまな学部の学生も参加しており、わんぱく学園を経験した大学生スタッフのOB・OGの中には、教員として現場で活躍している人もいます。

さらに、学生の若さや情熱、考え方、子どもたちへの対応などを間近で見ることで、クラブ運営委員やクラブスタッフの意識も変わりました。

活動を行うなかでクラブ自体の認知度も上がり、学校、行政、保護者などにクラブを知ってもらえるようになったため、わんぱく学園以外のイベントや教室の参加者も多くなりました。子どもの活動に関する周囲の理解度が向上したことにより、クラブに対する信頼を得ることができたと感じています。

企業などと連携を図りさまざまな課題の解決をめざす

取り組みを始めたことでたくさんの良い効果がありましたが、同時に「学生スタッフの減少」「活動費の捻出」「安全への配慮」などの課題も出てきています。

学生スタッフの減少については、活動を始めたころと比べて学生スタッフの人数が少なくなっており、今後もこれまでと同じような活動ができるか心配があります。現時点では大学本部との連携はありませんが、今後は、学生の体験の場はもちろん、総合型クラブと地域についての研究をする場として協力することにより、継続的に学生スタッフの確保につながっていけばよいと考えています。

また、活動費については、現在、ほとんどの活動費を参加費で賄っていますが、今後は企業との連携などを進めて活動財源を確保することで、安価に参加できる仕組みづくりを進めていきたいと考えています。

安全面への配慮については、熱中症や食中毒、感染症対策、また、多様な子どもたちの発達支援などについて、今後より一層の配慮が必要となっていくため、対応を考えていきたいと思っています。

3

人のつながりで地域の問題を解決し、なくてはならない存在へ

それぞれの立場から意見を出し合うことでつくりあげた活動。 今後もその心を大切に

クラブ設立から23年がたち、これまでにさまざまな課題をクラブの関係者だけではなく、運営委員、学生、地域ボランティア、参加者、クラブ員(教室、イベントの参加者や会員)、サポーター会員、そして指導者と話し合い、今があります。

財源確保、法人格取得、指定管理制度、会員確保、事務局体制、教室やイベントの事業展開、運営体制などクラブの自主運営のため、さまざまな努力をしてきました。

また、現在も地域では少子高齢化、教育、環境、経済など課題が山積みです。健康・スポーツ分野においては、子どもの体力低下、運動をする子しない子の二極化、部活動の地域移行、運動不足による生活習慣病などの課題があります。

これからも地域課題を解決していくために、クラブでは人と人のつながりを大切にしていきたいと思います。簡単に解決できない問題や課題解決の方向性が出ないときもあります。その中でクラブの良さや理念を語り、他分野の団体や人とつながりながら地域の問題を解決していくことで、クラブが地域になくてはならない存在になっていけるように頑張っていきます。

NPO法人おやべスポーツクラブクラブマネジャー 沼田秀樹

クラブプロフィール

- 設立年月日** 平成12年7月1日(平成18年4月3日NPO法人登記)
- 所在地** 富山県小矢部市埴生2124番地1(小矢部市文化スポーツセンター内)
- 運営** 会員数:1,355名(令和5年8月現在)、予算規模:60,497千円(令和5年度)
- 特徴**
- ◆子どもからお年寄りまでが年間を通して参加できる教室を多数設定している
 - ◆学生が企画運営している“子ども元気プログラム”を開催(わんぱく学園)
 - ◆地域活性化プロジェクトを開催している(イベント協力・緑化整備事業)
 - ◆全世代型ホッケークラブと連携して「ホッケーの街おやべ」を応援
 - ◆地域の問題点に協力し「楽しみ・想い・やりたいこと」ができる温かいクラブ
- 連絡先** 郵便番号:〒932-0836 住所:富山県小矢部市埴生2124番地1
TEL:0766-68-0588 FAX:0766-68-0588
HP:<https://www.oyabe-sc.com>
E-mail:info@oyabe-sc.com

